くらしナビ　カルチャー

老いに学ぶ

東洋史学者　礪波護さん(79)

隋唐代の中国史が専門の東洋史学者、礪波護さん(79)は昨年、論文集２冊と随筆集を出版し、今年も随筆集など２冊を出す予定だ。その勢いは、師で戦後日本を代表する東洋史学者の宮崎市定さん（1901～95）が90歳を過ぎた最晩年まで旺盛な執筆活動を続けていた姿勢にも相通ずる。礪波さんは「いえいえ、師には及ぶべくもありません。宮崎先生をはじめ多くの方の学恩を受けた身として、その成果を本として残しておくことも恩に報いることになるのではないかと考えています」と語る。【編集委員・鈴木敬吾59歳】

＝鈴木敬吾撮影

師・同輩　学恩あらばこそ

宮崎市定先生宅に通った至福

知が縦横　京大人文研の25年

歴史が面白そうだと京大文学部に進みましたが、2回生になり東洋史を専攻しようと思うまで、主任教授の宮崎市定先生の名前も知りませんでした。高校の先生になるつもりでした。家が真宗大谷派の寺で、卒論のテーマを中国仏教史にしたいと先生に相談すると、「仏教史は面白く、のめり込んでしまう人が少なくない。全体を見失う傾向があるから後に残しておきなさい」と言われました。でも何をしろとは言わない。

結局、宋代の財務大臣である三司使の成立過程を書きましたが、これを学会誌「史林」に載せてもらい学界デビューになりました。卒論の掲載は珍しく、その勢いで研究者の道を志すことになりました。

65年に宮崎先生が定年退官した時、私は博士課程の最上級生として送別会でスピーチをさせてもらいました。それから約30年、ほぼ隔週で京都・浄土寺の先生のお宅に伺い、3時間ほどお話しさせていただくことが続きました。至福としか言いようがありません。

先生は退官後、文筆に専念し次々と新たな論考を発表していました。「我が国東洋史学が生んだ巨峰」です。「御說ごもっとも」とする雰囲気の中、鈍感だった私は率直に感想を述べ、時には反論もしました。そこを良しとされたのでしょう。午後1時半に参上すると、先生は散歩の際、甘党の私のためにおはぎ10個を買って来てくれています。奥様が長方形の皿に並べ、先生が1個、残りの9個をいずれも思い出深いのですが、中でも「不譲於師」を大切にしています。論語の当仁不譲於師の言葉で、仁に関しては先生にも譲歩しないという意味です。万年筆で大書された後、先生は「師にも譲らざれと読んでください」と言いました。ぶしつけを自覚していましたが、まだ不十分だとお考えだったのでしょうか。

宮崎市定さん（左）の京都市内の自宅庭に立つ礪波さん＝1980年、本人提供

研究者生活を始めた京大人文科学研究所には、通算25年在籍しました。学者は専門分野の細分化で視野が狭くなりがちですが、人文研で中国史を多くの優秀な研究者と共に、文学や哲学、西洋史や日本史のさまざまな視点で考えることができたのは得難い体験でした。

最初に配属された哲学文学研究室では、中国哲学者の平岡武夫先生から毎朝9時から約1時間、中国語の特訓を受けました。月曜から土曜まで、夏休みも冬休みもなく1年3カ月も続いたのです。歴史学者の会田雄次先生の比較史の研究班では、西洋史の谷泰さんや樺山紘一さんらと親交を結びました。哲学者の上山春平先生は、寺町の書店、三月書房で、私がホイジンガの『ホモ・ルーデンス』を買うのを見ていて「中国史専攻なのに面白い」と可愛がってくれました。

大学院時代は、中国仏教史の塚本善隆先生、教煌学の藤枝晃先生という斯界の第一人者から仏教文献を読解する訓練を受けました。

今、アカデミズムの世界に効率を求める風潮があります。が、文系理系を問わず、知の探究はとてつもなく煩雑で、その技の伝承はマンツーマンに負う部分が多い。効率の対極です。手間を惜しまず指導してくれた先生方のことを思い出すと、胸が熱くなるのです。

京大の後、大谷大で72歳まで教えました。それをやめてから老いを意識するようになりました。5年前には妻の富美子に先立たれました。ただ、門徒なので、死ねばお浄土に帰るのだと漠然と思っています。死に対する恐怖はあまりありませんが、果たして死に臨みどう感じるでしょうか。

宮崎先生は岩波文庫に収められている『中国史』のはしがきに「私が近頃発表するものは、世のいみじき学匠達に捧げるものではない、私は将来ある若い世代を相手に学問を語りたく思う」と書いています。先生の学問と文章のみずみずしさは、いつも若い読者を想定して議論を展開していたからです。幸い、私の本を出してやろうという編集者がいます。心して見習わねばと思っています。

＝次回は3月21日掲載

となみ・まもる　1937年東大阪市生まれ。60年京大文学部史学科卒。65年同大学院博士課程を修了し同大人文科学研究所助手。神戸大文学部助教授、京大人文研教授を経て93年京大文学部史学科教授。2000年文学部長。01年定年退官し、大谷大文学部教授。現在、京大名誉教授・京大人文研名誉所員。

『唐代政治社会史研究』『隋唐の仏教と国家』『京洛の学風』『敦煌から奈良・京都へ』など著書多数。